

平成23年度 第3回平田地域協議会 会議録（概要）

1. 日 時／平成23年8月2日（火）午後3時～午後5時
2. 場 所／平田総合支所 302号室
3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦）
奥山仁委員、阿曾智子委員、伊藤市太委員、阿曾重雄委員、
菅原律子委員（副会長）、長谷部耕次委員、加藤勝子委員、
庄司美智子委員、石黒真委員・・・・・・・・・・・・・・・・計9名

（2）2号委員（識見を有する者）
阿部敬子委員、石黒均委員、阿部彦悦委員・・・・・・・・計3名

（3）3号委員（公募）
石黒由香委員、富樫文雄委員（会長）・・・・・・・・計2名

（4）酒田市平田総合支所
齋藤啓一支所長、石川忠春地域振興課長、中條幸弥市民福祉課長、
佐藤政好建設産業課長、地域振興課 土田瑞穂課長補佐、
小松原毅地域振興主査兼係長、地域振興係 阿部光正主任・・・・・・・・計7名
出席者合計21名
4. 欠席届／堀弥志雄委員（1号委員／団体推薦）
5. 次 第／（1）開会

（2）平田地域協議会 会長あいさつ

（3）平田総合支所 支所長あいさつ

（4）会議録署名委員の選任

（5）協議／平田地域ビジョンの確定について

(6) 閉会

6. 会議録／(1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

皆さんこんにちは。

今回の地域協議議会は、これまで検討してきた平田地域ビジョンを8月5日に市長へ提出するため、本日開催させていただいた。お忙しい中お集まりをいただき、本当にありがとうございました。

地域ビジョンは、組織や団体、住民など地域から出されている様々な提案を受けてまとめた。引き続き、地域住民の福祉のために、地域住民の生活の安定のためにがんばっていきたい。本日のご協議について、よろしくお願ひ申し上げます。

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

▶齋藤支所長

本日は暑い中お集まりいただき、ご苦勞様でございます。

6月の中旬と下旬の大雨により、相当の箇所が被害を受けている。現在は地元の皆様や関係者の熱意により、それぞれの箇所について、ようやく復旧の方向性が見えてきたところである。特に灌漑用水については、何を差し置いてもそちらに集中し、用水の確保に努めてきた。

復旧に向けては、地元で対応する箇所、地元が市の補助を受けて対応する箇所、市が地元の依頼を受けて工事を発注する箇所に分類される。被害箇所については、市が補助金を出したり直接工事を行ったりという箇所が、2回の大雨を合わせ市全体で251箇所である。うち平田地域が128箇所ということで、大変多い箇所数となっている。また被害金額についても、市全体で約3億円のうち平田地域は1億7千万円である。大変大きな被害ではあるが、皆さんの生活あるいは農作物にできるだけ影響がないようにと、がんばっているところである。

富樫会長のあいさつにもあったとおり、平田地域ビジョンがまとまり、8月5日にそれぞれ地域協議会の会長より、市長に提出していただく段取りとなっている。これまで様々なご意見をお聞かせいただき、それらをできるだけ反映させるよう努めてきたが、すべてというわけにもいかず、優先度の高い項目について載せさせていただいた。

地域協議会として地域ビジョンについての協議を行うのは、今回が最後となる。ぜひ様々なご意見をいただき、5日の日には富樫会長からすばらしい地域ビジョンを提出していただけるよう、よろしくお願い申し上げます。

(4) 議事録署名委員の選任

▶富樫会長

会議録署名委員として、伊藤市太委員を選任いたします。

(5) 協議／平田地域ビジョンの確定について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶伊藤委員

ビジョン1 コミュニティ振興会の確立 2. 実施すべき施策 (2)
コミュニティ振興会や自治会の組織強化と確立についてだが、2年前に区長制度が廃止され、その後5年間は、徐々に減額されるが市から自治会組織等運営費補助金が出る。天神堂自治会の場合、区長制度があるうちは地区の予算における役員報酬は全体の6分の1から7分の1で済んでいたが、区長制度廃止後は自治会予算の3分の1が役員報酬になっている。

3年後に補助金が1万6千円まで減ると、役員報酬が自治会予算の半分に達するのではないかということで、天神堂自治会だけでなく他の自治会でも問題となっている。平田地域ビジョンが平成30年までの見通しを立てるものであるなら、3年後に補助金をほとんど無くするような方向を、地域ビジョンの中で認めることはできない。

コミ振の会合でよく出るのだが、南平田コミュニティ振興会と砂越・砂越緑町コミュニティ振興会は二つの自治会が一緒になったコミ振だが、その他は多数の自治会で一つのコミ振を構成している関係上、コミ振に自治会長が10数名いる。その自治会長の、コミ振の構成員としての仕事面というか役割面での負担が大きくなっている。

郡鏡・山谷コミュニティ振興会でいうと、役員報酬は、会長、副会長、執行部役員、監事の7名分はコミ振から出ている。ここから外れる自治会長の場合、各事業に同じように参加していても報酬があるわけではなく、不満が出ているわけではないが、このままでは自治会長のなり手がなくなるのではないかと皆さん危惧している。こうしたことへの対応も、地域ビジョンに盛り込んでいただけたらと思っている。

▶阿曾智子委員

東陽コミュニティ振興会では、自治会長の業務を少しでも軽くしたいということもあって専門部制をとっており、自治会長さん方は総務部に所属している。以前であれば、衛生なり何なりすべてに自治会長が関わっていたわけだが、現在はコミ振から各専門部へ要請が行くので、自治会長がすべてに出るということはなく、少しは負担が軽くなったのではないか。

▶阿曾重雄委員

クリーン作戦などもコミュニティ振興会の事業となったが、自治会長となると、やはり出るところが多いのではないか。檜橋の自治会長からは、補助金が打ち切られた後に1戸の負担を何十円、何百円増やせば賄えるのかというような相談も行っていると聞いている。

▶伊藤委員

すべての自治会というわけではなく、特に小規模の自治会については、支援してもらわないと今の状態ではこの先役員のなり手がなくなる。郡鏡の方でも自治会長を輪番制にしようという所もあるし、コミュニティ振興会の事業は市の事業であり、自治会長がコミ振の仕事をするなら市から報酬をもらい、自治会の仕事については自治会から報酬を支払えばいいのではという、そういったきつい意見も出てきている。それらの意見に対してうまく対応できないので、市からは特に、小規模な自治会に対しての支援を考えていただきたい。

▶石川地域振興課長

今いただいたご意見というのは、区長制度から自治会組織等運営費補助金に変わる時から将来を不安視して出ている意見でもある。平田地域ビジョンにも、小規模集落であることによる後継者不足・人手不足などの面に対する支援と載せているが、具体的にどういう方法で支援していくかは、地域ビジョンの他の施策同様、今後詰めていくことになる。

▶奥山委員

ビジョン2 安全安心の地域づくり 2. 実施すべき施策 (4) 風水害、震災などの各種災害への対応についてだが、東日本大震災に続き、新潟や福島でも大洪水が発生している中、この部分については費用対効果などをあまり考えないで対応していただきたい。

▶石川地域振興課長

この(4)については、三つの視点で整理している。一つ目は施設面だが、避難所の必要性は酒田市地域防災計画にも載っており、避難所のあり方については、現在地域防災計画の見直しの中で検討されている。平田地域の旧公民館施設については、そういった位置付けの中で維持管

理していくことも必要なのではないかということで、平田地域ビジョンに載せている。

二つ目は、自治会にも自主防災組織があり、災害などが発生した際の備えとして、平時からいろいろな資機材を整備して集会施設への避難に対応するため、組織に対する支援が必要だということである。

三つ目は、災害発生時には日ごろから訓練しておかないと対応できないということもあり、訓練や危険個所の点検も行いながら、コミュニティ振興会や自治会単位での自主防災の組織作りを行っていかうというものである。奥山委員から出されたご意見については、こういった形で、地域ビジョンに盛り込まれているとご理解いただければありがたい。

▶阿曾智子委員

ビジョン5 定住人口の拡大 空き家バンク制度とあるが、住んでもらった場合の自治会費などについて、規則のようなものを盛り込めないか。うちの方にも別荘的に使う形で空き家を購入し、入ってきた方がいるが、自治会費を納めてもらうことができない状況となっている。

災害があった場合など、あなたは自治会費を払っていないので見てあげられないとは言えない。そういう点でもやはり自治会に入ってもらうことが一番いいわけで、空き家を購入する時点で自治会費を納めることがルール化してあれば、その後すんなりいくと思うので、その辺をお願いしたい。

▶石川地域振興課長

中山間部の空き家については、環境が良いということで、週末だけ来て利用している例も見られる。そういった方の自治会費については、市でどうこう言えないので、額も含めてやはり自治会の中で相談していただくことになる。自治会によっては、住所を移してなくとも協力費として一定の負担をいただいている事例もあり、そのあたりは自治会長会などで情報交換を行っていただきたい。

空き家についての情報収集は、平田町時代に区長さんへお願いして行ったことがあった。今度8月から9月にかけて、現在の空き家の状況について調査を行う予定である。酒田市においても、廃屋のような状態となった空き家が周辺の環境を悪化させていたり、危険であったり、また管理者が不明な場合や、所有者はいるが事情があって解体する余裕がないなど、様々な問題が出てきている。これらに対応するため、特に廃屋をどうしていくかということについて、現在市として検討しているところである。

空き家の活用については3総合支所管内の課題であるが、他から地域

に入ってもらい自治会費なども納めていただきながら、そして地域の人も増えて活性化につながるというような仕組みを、これから検討していきたい。

▶富樫会長

私も見守り活動を行った際、空き家で無職成年がたむろしたり酒盛りしたりしている例も見ている。住民の安心につながるような調査をお願いしたい。

▶長谷部委員

この平田地域ビジョンの案には、コミュニティ振興会の中でどうなのだろうという危惧されている問題が盛り込まれているようである。ただ重要なことは、ここに盛り込まれている内容の実現性というか担保がどのくらい確保できるかということである。地域課題の解消に向け、富樫会長からも、各要望事項についてのたが締めをしっかりと行っていただきたい。

もう一つ、要望を実現までもっていくためには、現在の支所の能力で可能なのが課題だと思っている。支所長や課長に異動があった場合の申し送りも重要であり、事業の実施にも大いに影響してくる。さらには、ここに網羅されている要望について、コミ振などで何を優先的にやっていくのかを絞り、順位を付けて出していくと実現性も高くなるのではないかな。

酒田ふれあい商工会としても、地域課題への対応について検討している。一つ目は、買い物難民の救済、一人暮らしの方の健康状態の管理や災害時の対応といった、福祉と経済とを結びつけた活動を行う組織を立ち上げていこうという方向性を打ち出した。もう一つは、自然エネルギーによる地域経済の活性化に向け、ノウハウを持っている研究機関や業者もあることから、自然エネルギーについての研究をこの地域で展開していこうという方向性を固めたところである。

▶富樫会長

平田地域ビジョンは、地域として目指す将来像の実現に向け、その期間である平成30年までに必要な施策をまとめたものである。地域ビジョンを市長に提出する際には、地域ビジョンは地域や各種組織団体からの要望を盛り込んだものであることを説明し、その実現に向けた各種事業の推進について要望したい。

▶石黒均委員

ビジョン4 交流人口の拡大 2. 実施すべき施策 (2) 中山間部における活力の向上と地域に根ざした活動の活性化に向けた、ひらた生

涯学習センターの機能強化とあるが、この施設を拠点としながら中山間部の活性化を図ることについては、以前からの課題であるのだがあまり見えてこない。この施設は、夏休み、冬休み、春休みの土日には市内の小・中学生の合宿で埋まり、予約できない状況となっている。地元では山形田沢っ子こぐぞ〜クラブが拠点として活動し、全国大会にも出場するほか、鶴岡市、庄内町、三川町の団体も利用している。

こうした利用状況も受け、スポーツで利用したい人たちのニーズに応えられるよう、宿泊施設を大きくするとか、運動施設を整備するなどしながら、ここを拠点に悠々の杜や旧阿部家まで足を延ばしてもらうなど、スポーツと観光とが連携した展開も考えていけるのではないかと。今、B&G海洋センターなど体育施設に関しては、ほとんど予約が取れない状況である。3カ月前からインターネットで予約できるのだが、先着順であるため地元の子どもたちが使えないという場合もある。

それだけニーズはあるわけなので、現在の利用状況や件数なども参考としながら、具体的な検討に入っていただきたい。利用者の確保に向けては、あそこに行けば他と違うものがあるということも重要。

▶菅原副会長

平田地域において、ひらた生涯学習センターの問題は以前から継続している課題であり、ただいまの石黒均委員のご意見はごもっともである。私もぜひ大きく取り上げていただき、早く進めてもらいたいと思っている。砂越・砂越緑町コミュニティ振興会で過疎計画の話し合いを行った際にも、この施設と隣接市有地を有効活用すべきとの意見が多く出された。

▶石黒由香委員

先日行われた移動市役の際、市長に対し、ひらた生涯学習センターの隣接市有地に一輪車や陸上競技の練習が可能な全天候型レーンを整備していただきたい旨の要望を行った。その時は整備費が課題になるとのことであったが、ある程度費用はかかっても、きちんとした施設でないと使ってもらえない。

生涯学習センターには特色があり、研修ができるうえに格安で宿泊も可能である。また体育館やテニスコートも備えるなど、様々な機能を備えているが、こういった施設は他にあまりない。整備するのであれば、これらの機能を生かしながら、そこに行けば特別なものがあって皆さんが来たくするような、しっかりとした施設を作っていただきたい。

▶阿部彦悦委員

平田地域ビジョンを市長に提出した後の、住民へ周知はどう行うのか。地域ビジョンができて良かったで済んでは困るわけで、その実現に向け

た進め方や、どの程度進んでいるのかという検証をどう行っていくのか。

▶石川地域振興課長

平田地域ビジョンについては、印刷して平田地域の全世帯に配布したい。事業の進め方についてだが、ハード事業については市の予算で実施するが、ソフト事業については、地域の皆さんと市とが役割を分担しながら一緒に進めていけるものもある。

一例をあげると、胎蔵山の登山道に少し危険な所があり、そこに手すりや階段を整備したいという要望が出されている。一つの手法としては、材料費については市で支援を行いながら、地域の皆さんからは労力を提供していただくといった取り組みが考えられる。こうしたことは、これまでやってきている地域であり、他についても住民と市との協同で行うものが出てくると思われる。

平成24年度における予算化については、総合支所の地域づくり予算に入れるもの、本所と調整しながら各課の予算で行うものが出てくる。事業の進捗状況については、1年ごと地域協議会の委員の皆さんから総括していただくことが必要だと思っている。

▶石黒真委員

ビジョン3 産業の振興の所に、飛鳥中学校で取り組む「飛鳥ブランド事業」も載るということを、飛鳥中学校の校長、教頭、PTA三役に報告している。飛鳥ブランド事業自体は平成23年度で終了するのだが、地域の皆さんからご協力をいただきながら、子どもたちのアイデアが商品化できたということを実にありがたく感じている。地域ビジョンに載せてもらうということも、地域の子どもたち、地域の中学校のことを考えていただいていると、心から感謝しているところである。

▶阿部敬子委員

先ほどからひらた生涯学習センターの話が出ているが、この課題に対しては一層力を入れて向かっていただきたい。それがまさしく、山元、田沢、中野俣、北俣の、中山間部全体の活性化という大きな目標の達成につながる。私たちも里山への人の流れを作り、せっかく来てくれた人たちの滞在期間を長くするような、受け入れ態勢づくりや特色づくりに力を出していきたい。

▶庄司委員

ビジョン1 コミュニティ振興会の確立 2. 実施すべき施策 (2)
コミュニティ振興会や自治会の組織強化と確立に関し、公民館からコミ振に変わった際、初めは私たちも心配であったが、皆様のご努力によりコミュニティセンターで活動を行う際も使いやすく、大変ありがたいと

思っている。コミュニティは地域の我が家という感じで、地域の方々から遠慮なく、様々な活動に使っていただける施設であればと思っている。

コミ振が設立して3年目となったが、ある時期には総合的な評価とか見直しとかが行われると思っている。郡鏡・山谷コミュニティ振興会のように、小さな集落や山を越えた地域で構成されていると、人的な交流は持っても、やはり地理的な部分でなかなか一緒にできないという部分も見える。コミ振のあり方として現在の五つでいいのか、その辺は分からないが、今やっとうちよくなったところでもあり、ここでまず少し評価なりを行い、いくらでも良い方向へもっていくことも必要ではないかと思っている。

▶加藤委員

ビジョン2 安全安心の地域づくりの所だが、私も民生委員として、有事の際の避難態勢などについて危惧していたところであり、取り上げてもらって良かったと思っている。現在自治会長と一緒に、見守りネットワークに取り組んでいるところであるが、緑町も30何年が経ち、お年寄りの一人暮らしや老人夫婦世帯が相当増えている。みんなが安全に安心して暮らしていけるまちづくりについて、この地域協議会でも検討していけたらと思っている。

▶富樫会長

先ほど阿部委員からご質問があったが、平田地域ビジョンについては、市長に提出した後に地域へ配布し、周知を図りたい。委員の皆様からも、各組織・団体における周知について、よろしく願いいたします。

(6) 閉会

▶菅原副会長

本日は貴重なご意見、また慎重審議ありがとうございました。

平田地域ビジョンは、8月5日に富樫会長から市長に提出されるわけだが、本日出された意見もしっかりと伝えていただきたい。これからも平田のために、良いまちづくりのために、皆様と一緒にがんばっていききたい。本日は本当にご苦勞様でございました。ありがとうございました。